



学校だより



令和4年 3月 1日
3月号
調布市立第一小学校
校長 川島 隆宏

<http://www.chofu-schools.jp/chofu-1sho> TEL042(481)7636

仲間を大切にし、仲間とともに成長できる人に

校長 川島 隆宏

ここ数日暖かくなり、梅の花が咲き始め、春が感じられる季節となりました。保護者、地域の皆様には、日頃から本校の教育活動に御理解と御協力をいただき深く感謝申し上げます。

まもなく終わりを迎える令和3年度ですが、昨年度に引き続き、新型コロナウイルスと向き合いながらの1年だったように思います。学校行事をはじめ各種教育活動については、できるだけ中止をせずに工夫することで、子供たちの学びを継続しようと展開してきたつもりです。まだまだ終わりは見えない状況ですが、教職員一同頑張っておりまして、よろしく申し上げます。

さて、本年度は、夏と冬にオリンピックが開催されるという珍しい年度となりました。先頃まで行われていた北京オリンピックにおいても、日本人選手をはじめ、世界中のアスリートの頑張りに私たちも多く、の勇氣と元気をもらいました。先日の全校朝会で子供たちに話したのですが、大会終盤の女子スピードスケート・パシュートの金メダルをかけた決勝戦で、日本チームは最後のカーブで1人の選手が転倒し、惜しくも銀メダルとなりました。この競技は3人1組でチームをつくり、空気抵抗などを考慮して1列になり、先頭を入れ替わりながら滑る競技です。日本チームの3人の息がぴったりと合った滑りに、「まるで1人で滑っているようだ」との称賛の声が上がっていました。その甲斐あって、最後のカーブまでは相手チームをリードしていたのですが、まさかの転倒で金メダルを逃してしまいました。翌日のTV番組で、あるアスリートが、「確かに他の2人はショックだったと思う。でも、ここ（決勝）まで来られたのは、3人で辛い練習を乗り越えて、互いに励まし合って頑張ってきたから……。だから、決して責める気持ちはないと思う。」表彰式での3人の泣き笑いの写真を見た時、その言葉が本当であることを確信したのと同時に世界のトップに君臨できる人間の大きさを感じました。

私が学級担任をしていた頃、体育の授業や球技大会等でも、同じような出来事はよく起こりました。「あのシュートが入れば!」「あそこでエラーをしなければ…」子供たちの人間関係の雲行きは怪しくなります。悔しい気持ちはみんな同じ。でも、同じチーム、同じクラスの仲間であれば、その辛さをみんなで分け合い、失敗した仲間を気遣える人であってほしいと話した記憶があります。その時、子供たちがどこまで納得してくれたかは分かりませんが、子供たちにとって一つの学び（成長）であったと信じています。

今、欧州で非常に悲しい出来事が起きています。同じ人間同士、家族や愛する人を大切に思う気持ちは国が違って同じだと思えます。同じ地球でともに生きる一人として、「仲間を大切にし、仲間とともに成長」していく答えを見つけていきたいと思えます。

3月の生活目標 **学校をきれいにしよう**

1年間使ってきた教室や机・椅子等をきれいにする中で、気持ちの整理を行い、新たな学年への意欲を培っていきたいと思います。また、次に使う人への思いやりの心や、公共物を大切にすることが育つよう指導していきます。